

## 全国学力調査 結果報告

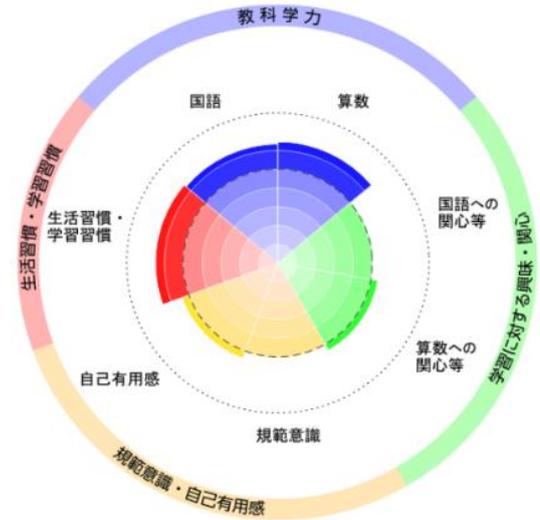
研究部

「令和6年度全国学力・学習状況調査」の結果報告です。これは毎年、6年生を対象に実施されている国の調査です。

### 【学力調査の結果】

国語	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)
本校	70	10.9 / 14	78
東京都(公立)	92,761	9.8 / 14	70
全国(公立)	947,364	9.5 / 14	67.7
算数	児童数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)
本校	70	12.0 / 16	75
東京都(公立)	92,782	10.9 / 16	68
全国(公立)	947,579	10.1 / 16	63.4

### 【全国学力・学習状況調査チャート】



※破線(----)が全国平均

この調査結果から、本校6年生の国語・算数における教科学力は、共に全国平均・都平均を上回っており、高い水準であると考えられます。

国語は、情報の扱いや読むことに関する設問の正答率が高い一方で、話すこと・聞くことや漢字の正答率が低い傾向があります。話すこと・聞くことについては、授業の中で自分の考えを発信するだけでなく、友達の考えを受けて比べられる(見方を広げられる)ような授業展開を目指すことで改善していきます。漢字については、宿題等の漢字学習で、決められた範囲の書き取りではなく、児童自身が必要に合わせて学習の仕方を考えるような取り組みを行うことで、更なる定着を図っていきます。

算数は、数と計算・図形についての正答率が高く、全国平均を10%以上上回っていました。正答率が低かった設問には、考えを説明する問題があります。これまでも授業の中で自分の考えを書く活動を行ってききましたが、児童が書いた考えに対するフィードバックを今以上に丁寧に行うことで、児童が自身の課題に気付き、改善していけるようにしていきます。また、正答数が5問以下の児童もおり、正答率の高い児童との差が大きく開いています。算数の学習を苦手とする児童へのフォローアップとして、現在行っている少人数指導を継続して行うとともに、朝学習の時間を有効に活用したり、単元テスト前に復習や補習の時間を取るようにしたりすることで苦手を克服できるようにしていきます。

学力調査と同時に実施された「学習に対する興味・関心」、「規範意識・自己有用感」、「生活習慣・学習習慣」についての調査結果が右のチャートです。概ね平均以上の肯定率ではありますが、全国平均に近い値もあります。中でも、それぞれの教科の大切さを感じているか問う質問では、いずれも1割程度の児童が大切さを感じていないと回答しています。今学習していることの意味や価値をこれまで以上に児童に伝えていくことで、全ての児童が学習の大切さを感じられるように指導していきます。また、自己肯定感や自己有用感に関する質問に対しても、1割程度の児童は否定的な回答をしています。こういった目に見えない力を育むため、一人一人児童が互いの良さを認め合い、高め合えるような環境づくりにこれまで以上に励んでいきます。

## 【各学年の課題と取組について（校内研究の意識調査より）】

今年度、本校の校内研究では、『主体的に学び、自分なりの学び方で学習を深める子』～個別最適な学びを通して～」をテーマとして取り組んでいます。児童の学び方についての意識調査を取り、結果から各学年の傾向と改善策をまとめました。また、第6学年は全国学力調査の結果と合わせ、課題や改善策について検討しました。（前ページ掲載）

### 【アンケート項目及びアンケート結果】

1 学習に関するアンケート（1学期）	「とてもそう思う」「ややそう思う」と答えた児童の割合（％）					
学習のしかた・授業での学び方	1年	2年	3年	4年	5年	6年
①授業のときに、学習についての自分のめあてを立てていますか。	71	57	64	56	72	66
②授業の中で、自分たちで学習課題や学習問題を決めていますか。	63	57	60	70	77	70
③授業のときに自分で学び方や学習の進め方を決めていますか。	12	72	73	65	72	64
③授業のまとめやふりかえりをしていますか。	64	75	81	81	78	70
2 授業についての質問						
①授業の中で、自分たちで学習課題や学び方を決めることは、自分のやる気につながっている。	78	62	72	65	67	70
②自分のペースで学びを進めていくことで、学習内容が分かるようになっている。	36	76	82	84	88	79
③授業を通して、さらに調べたり、生活に生かしたりしたいと思っていますか。	81	76	78	68	69	68

	学年の傾向と課題	改善策
低学年	<p>○「学習のふりかえりやまとめをしている」（1-④）は、肯定的な意見が多い。児童の意識が高いことが分かる。〈2年〉</p> <p>○学び方やその方法を学んでいる段階なので、「学び方を選択している」という項目では、1年生の評価が特に低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を進める際に「今から振り返りをやります。」「これが振り返りだよ。」と、振り返りを毎回、声掛けをして意識付ける必要がある。</li> <li>低学年の今の時期は、「1時間の授業のめあてが分かる。」「めあてに向けて頑張る。」等を少しずつ授業の中で意識できるような工夫をしていくことが大切。</li> <li>低学年では、中学年以上で学習をさらに発展させるための方法を知ることが大切。そのためには、学習内容を自分たちで計画したり、様々な学習方法に取り組んだりすることが大切。</li> </ul>
3年	<p>○みんなと同じめあては、「自分のめあて」と認識していないと考えられる。（1-①）</p> <p>○まとめや振り返りに関する項目（1-④）が、81％である。ノートの使い方が習慣付いている児童が多い。</p> <p>○学習に対する意欲、関心（2-①）や学習の進め方（1-③）の肯定的な回答が多く、自ら学習の進め方や学習方法を決めることができている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあての立て方、もたせ方を改善する。また、めあてを自分事として捉えさせていくようにする。</li> <li>低学年からの積み重ねが今につながっている。特に算数では、低学年でのめあてを立てて学習する習慣が身に付いているので、今後も縦のつながりを大切に指導の系統性をもたせる指導を心掛ける。</li> <li>学習スタイルを確立し、学習の見通しが立ってくると意欲的に学習することができるので、引き続き意識して続けていく。</li> </ul>

4年	<p>○まとめや振り返り（1-④）について肯定的な回答が81%である。これまでの積み重ねにより、学習のまとめ・振り返りを書くことが習慣付いていることから、この時間で付けるべき力（学習課題）や前時間との違い（学習問題）等を意識しながら授業を受けることができている。</p> <p>○学習方法、学びの進め方の自己選択感が強く、達成感が得られている。（2-②）</p> <p>○学習した内容を自分たちの生活に生かすところが、全校の結果と比べて低い。（2-③）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童にゴールを示して、そこまでの道筋を児童主導で立てられるような指導を行う。</li> <li>・まとめ、振り返りを書くことは習慣づいている。</li> </ul>
5年	<p>○今年度より始めた自分に必要な学習を選んで行う形式の家庭学習では、個人差はあるものの、多くの児童が自分の学習を振り返り、必要な学習を選んで行うことができている。</p> <p>○「自分のペースで学びを進めていく（2-②）」は、87%の児童が肯定的に捉えている。 ※算数の習熟度が高いコースでは、学習のゴールを設定し、そこまでは児童に学び方を任せるような形式の授業を行ったときも、児童は前向きに学習に取り組んでいた。この児童の実態からも、個別最適な学びは本学年の児童にとって、必要なことが分かる。</p> <p>○「学び方を決めることでのやる気（2-①）」や「生活に生かしたい（2-③）」の項目は、肯定的な回答をした児童が少ない。ここから学習そのものに対して、抵抗感を示す児童がいることが考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中でも学習後の振り返りの時間を確保し、今日の自分の学習がどうだったかをよく考えさせ、次の学習につなげていく。その際、教師や友達からの励ましの言葉を意図的に多く掛けられるようにし、学習そのものに向かう姿勢を認めていく。</li> <li>・授業の導入時に、前回の振り返りをする時間を確保し、学習はつながっているということを理解させる。</li> </ul>

## 【全体として】

アンケート結果から全体的な傾向として、学年が上がるに従って学習スタイルが確立し、児童が見通しをもって主体的に学習を進めていくことができていると考えられます。学習のめあてを自分事として捉え、課題に取り組み、振り返りをしていくという学びのサイクル（PDCA）を教師が意識して行うことで、児童が自分で学習を進めていくようにしていきます。また、学年が上がるにつれて授業をさらに調べたり、生かしたりしたい（2-③）の項目が、下降傾向になっています。今年度から取り組み始めた自主学習を活用し、学習を発展させたり深めたりできるように工夫していきます。

学び方は一つではありません。中央教育審議会からも「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」が「主体的・対話的で深い学びにつながる」と答申が出ています。昨年度の研究テーマ「他者との交流を通して、自分の学びを深める子」という協働的な学びの充実に向けて行った研究を踏まえ、今年度は児童がそれぞれ自分に合った学び方を身に付け、学習を進めていけるよう研究をしています。教師も多様性を尊重し、柔軟に児童に対応できるよう新しい試みに挑戦し、アップデートしていきます。

# 10月の行事予定

SC スクールカウンセラーの来校予定日    
 CS 学校運営協議会  
 ☆校庭開放日（水：14:30～17:00 日:13:00～17:00）

日	曜	行 事	授業時間数					
			1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	火	都民の日						
2	水	特A	4	4	4	4	4	4
3	木	安全指導	5	5	5	6	6	6
4	金	5時間授業 体育学習発表会リハーサル	5	5	5	5	5	5
5	土	体育学習発表会	5	5	5	5	5	5
6	日	☆						
7	月							
8	火		5	6	6	6	6	6
9	水	クラブ活動 ☆	4	4	4	5	5	5
10	木	集会 元気スポーツ週間（始） 総合出前授業（4）	5	5	5	6	6	6
11	金	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">SC</span>	5	5	6	6	6	6
12	土	漢字能力検定						
13	日							
14	月	スポーツの日						
15	火	移動教室前検診（5） 理科出前授業（6）	5	6	6	6	6	6
16	水	委員会活動 元気スポーツ週間（終） ☆	4	4	4	4	5	5
17	木	特A 就学時健康診断 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">SC</span>	4	4	4	4	4	4
18	金	たてわり班活動 元気スポーツ記録会	5	5	6	6	6	6
19	土							
20	日							
21	月	朝会 読書旬間（始） 図書館見学（2） <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">SC</span>	5	5	5	6	6	6
22	火	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">CS</span>	5	6	6	6	6	6
23	水	移動教室（5） 本物に学ぼう（6） ☆	4	4	5	5	6	5
24	木	移動教室（5） 情報モラル教室（1・2）	5	5	5	6	6	6
25	金	移動教室（5） 本物に学ぼう（6）	5	5	6	6	6	6
26	土	長縄グランプリ						
27	日							
28	月	中学校授業体験（6） 音楽会会場準備（5） <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">SC</span>	5	5	5	6	6	6
29	火	生活科見学（1）	5	6	6	6	6	6
30	水	校内研究授業（2-2） ☆	4	4	4	4	4	4
31	木	町たんけん（2）	5	5	5	6	6	6

※予告なしの避難訓練があります。

## 10月の生活目標…「廊下を静かに歩く」 （生活指導部）

休み時間や教室を移動する時、廊下を走っている人を見かけることがあります。とても危険です。「早く遊びに行きたい。」「授業に遅れそう。」など焦る気持ちでつい走ってしまうのかもしれない。少しの気の緩みが思わぬ事故を招きます。松庵小の子供たちが安全に学校生活を送ることができるように、廊下は、右側を落ち着いて歩くよう指導していきます。